

総合計画審議会 会議録

会議名	第5回 いなべ市総合計画審議会
開催日時	平成27年2月20日（金）14:00～15:30
開催場所	いなべ市員弁コミュニティプラザ 2階集会室
出席者	<p>【委員】11名 丸山康人、永井澄美、近藤勝敏、川瀬正幸、美濃部昌利、伊藤和雄、出口真輔、小澤和茂、水野章、小林久里子、伊藤久子（欠席：中澤政直、位田とよ子、門脇よしゑ、伊藤一人、畑中美奈子、種村浩人、西川良香、多湖節男）</p> <p>【事務局等】15名 いなべ市：副市長、総務部長、都市整備部長、市民部次長、福祉部長、健康こども部長、教育部長、水道部長、建設部長、農林商工部長、企画部長、政策課長兼財政課長及び政策課職員3名</p> <p>【オブザーバー】1名</p>
会議次第	<p>1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 追加説明及び審議 いなべ市総合計画基本構想（案）について資料 （1）第2部 基本フレームについて （2）第3章 施策の大綱について 4. 次回の会議について 5. 閉会</p>
配布資料	【資料】第2次いなべ市総合計画基本構想（案）
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議 事 概 要	
<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ 審議は今回で最終ということになる、本日も皆様のご意見をいただきたい。</p> <p>3. 審議事項 【会長】 前回までの修正と人口フレーム、財政フレーム等を加えてもらった。追加説明、審議ということをお願いしたい。</p> <p>【事務局】 資料第2次いなべ市総合計画基本構想(案)中、第2章 計画の基本フレームについて説明(23頁から28頁)</p> <p>【会長】 次回の3月の会議で答申となるので、全体を含めてご意見をいただきたい。</p>	

【委員】

ふるさと納税という制度があるが、市としてどう考えているのか。

【事務局】

現在、青川峡キャンプパーク、阿下喜温泉、パークゴルフ場など、施設の割引券や宿泊券を、ふるさと納税の特典として贈呈している旨を説明。また、2月18日に正式決定したツアー・オブ・ジャパン（国際自転車ロードレース大会）に協賛していただける方の寄附金についてもふるさと納税として募っていきたい旨を説明。その際には、特典としてツアー・オブ・ジャパンいなベステージの限定グッズを考えていることを説明。ふるさと納税の特典として、特産品を充てる自治体が多いが、当市では、市に来て魅力ある施設などを体験していただけるようにしている旨を説明。

【委員】

具体的にどういったシステムなのかよく分からない。特産品などを渡して本当に税収になるのか分からないが、さくらポークや新種の蕎麦などをブランド化のために利用できればと思う。

【会長】

魅力向上に向けて、是非とも各部署で考えていただければと思う。

【事務局】

企業誘致が確かに大事だが、自然、農業など地域に沿った産業を興していかなければと考えている。現在国でも進めている地方創生事業として考えている状況である旨を説明。

【会長】

地方創生は今どういった状況か。

【事務局】

平成27年度に有識者の声などもいただきながら策定する予定である旨を説明。

【会長】

他に何かあるか。

【委員】

資料31頁の生涯学習について、いなべ市として具体的にどのような学習内容があるのか。具体的なことを教えてもらえば励みになる。

【事務局】

生涯学習の機会がもてるよう、年齢、趣味、仕事など様々なニーズの把握と、きっかけづくりを行い、市民に主体的に動いてもらえるように取り組んでいる旨を説明。まずは、きっかけづくりが大切であることを説明。

【委員】

提案だが、子供も、社会人になってもストレスを抱える時代となっている。子どもの不登校や、成人が人間関係の悩みで仕事に行けないことなどについて、友人・親として話は聞いてあげられるが、現代は色々な事件があって対応が難しいと考える。励まし方も、人々の悩みが複雑になって難しいと思われる。

心理学やスクールカウンセラーなどの支援が増えていると思うので、普通の市民でも参加できる内容のものがあればよいと思う。

【会長】

貴重な意見である、今後の活動で考慮してほしい。

【委員】

資料 32 頁の自然学習と高齢者について、私もこちらに来て鈴鹿山脈の動植物に触れているが、ここは自然が本当に素晴らしいと思う。他では歩くところが柵で区切られて決められており、少しでもはみ出したりしたら注意を受けるが、ここではそういうことがなく素晴らしい。「大切さを啓発します。」ということについて、今後、どこが核となってどう行っていくかが具体的にわかるとよい。市民にアピールするのか、市外の人を呼び込むためにアピールするのか、があるとよい。山をよく知っているインストラクターの方など、指導者がいてくれたらよい。また、定年の楽しみにこれまで農業をやったことがない人も野菜づくりするなど、そういったことも盛り込んでもらおうと面白い。

【事務局】

現在、グリーン・ツーリズムの取り組みで、交流を行いながら地域の活性化を図るための調査、計画を策定している旨を説明。北勢町で2地区、藤原町3地区をモデル地区として行っている旨を説明。外部の方に魅力を感じてもらおうとともに、地域の方にも誇りを持ってもらう取り組みを進めている旨を説明。

【会長】

大切なことである。今後、基本計画にも盛り込んでいってほしい。

【委員】

市民が主役のまちづくりということが、すごくうれしく感じた。誰もが体験できるという気持ちを皆さんに持ってもらえて、意見をどんどん出してもらおうようにしていければよい。

【事務局】

ありがとうございます。この市民が主役のまちづくりは、とても大切な部分だと思っており、共通目標として横断的な位置づけにしている旨を説明。

【委員】

市の庁舎が新しくなるが、市の組織は変わるのか。  
人口減少というばかりだけでなく、若者が定着するように努力してもらいたい。職員を増やすということも一つである。すべてに対応してもらえるということではないが、高齢者への対応もできるし、聞く場や機会も持てる。

【説明者】

新庁舎の件については、今年度3月までに基本的計画を策定する旨を説明。また、市民の方など、みんなに使用していただけるスペースなども計画している旨を説明。また、各会等の代表者などにご意見いただく機会も設けていくので、その際は是非ご意見をいただきたい旨を説明。

【会長】

では、財政フレームについて私から。私は専門なので分かるが、もう少し、一挙に数値が下がる部分についての説明をお願いしたい。大きく下がる場所については、カッコ書きでもいいので説明し、一般の方もわかるように配慮してほしい。  
これらのフレームを前提として進めていくという状況だが、他にご意見はないか。確かに大綱は抽象的なものなので物足りないと思うこともあるかもしれないが、基本構想は、そういうものであることを理解していただけたらと思う。

【委員】

人口が減少していく。長男が外へ出て、老人夫婦、田畑と家が残されている。古民家は全国で820万戸の13%、三重は平均15%。そのあたりも利用して、若者が住めるまちになるとよい。鈴鹿の話だが、サーキットで若者が集まっている。いなべ市も世界的な企業が4つもあるので、力をもらいながら、効果的に取り組みを行っていければよい。もう一つ、ツアー・オブ・ジャパンも世界的なすごいレースなのでPRを。

【事務局】

若い人がいなべに集まってもらうようにすることは非常に大切と考える。いなべに生まれ育っても、学校の関係で一時期離れる人が非常に多い。市外、県外にいる人に向かっていなべの新しい情報を発信することにより、また戻りたいという気持ちも強くなると思う。その時に受け入れるための、企業誘致や新たな産業を市としても興していきたい。

委員の発言された鈴鹿の取り組みも鈴鹿サーキットを核とした取り組みであると思う。いなべは大企業がたくさんあるので、人は集まる。勤め先は最も重要な要素で、その人たちが住んでよかったと思えるようにPRをしつつ、戻ってきたいということで情報発信ができればと思う。

ツアー・オブ・ジャパンは今年5月19日火曜日に市内北勢町、藤原町内を舞台とした国際的自転車ロードレースである。世界から約100名が集結する。そのうち半分は日本人である。新聞報道や市のHPなどでも情報を発信していくので、応援・協力をお願いしたい。

【委員】

デンソーの近くに住んでいるが、近所のおばちゃんたちに話を聞くと、独身の期間社員が結婚せずにいる。20歳代で来て、30歳、40歳代になっても独身のままで、実家からもう帰ってくるように言われるようだ。外から来た若い人にいなべで結婚してもらって、定住してもらうためにもの婚活イベントを増やしてほしい。

【説明者】

市では、3年間婚活事業に取り組んだ旨を説明。カップルは多くできるが、結婚には至っていないことから、行政主体で事業に限界を感じ、行政ではなく民間の力を活用し、固いものにならないように工夫し、事業を進めたが成果は上がらなかった旨を説明。このことから、行政の取り組みとしては一旦終了し、次の方策を模索している段階である旨を説明。

【委員】

どういうふうに話すかなども教ればいいのか。男性は控えめである。

【委員】

男性は多いが、女性は出て行ってしまう。

【委員】

女性は、結婚して出て行ってしまう。

【会長】

若い女性が働ける場も大事。戦略を考えなければ。この点は行政もよくわかっていると思うので、次の策を考えることができれば。私もよくわからない部分だが。

【委員】

財政フレームが減る説明について。減少が大きいピンクと水色の項目は何か。

【事務局】

地方交付税が合併特例措置の期間が終了することにより 20 億円近く下がる旨を説明。水色の繰入金は、合併後の均衡を図るために行う各種公共事業費に基金（積立金）からの繰り入れ（取り崩し）を行っているが、平成 30 年度ころからは、大きく減少する旨を説明。合併したどこの市町も同様の傾向である旨を説明。

【事務局】

今、委員が発言されたピンク色は借金である旨を説明。これは合併してから 15 年間は有利に借金ができ、その借入額の 70%が国から地方に交付税として分配されるものである旨を説明。

また、オレンジ色は、先ほど説明させていただいた地方交付税の合併特例措置の期間が終了することに伴い平成 30 年度から、減少している旨を説明。グラフの見せ方、表現の仕方はもう少し分かりやすくさせていただく旨を説明。

【会長】

この点は、私に一任いただき、チェックして修正するという事でよろしいか。  
これで了解いただいた。修正は、私がチェックするという事で、ご了承下さい。

4. 次回の会議について

【事務局】

今回は、市町への答申である。3月20日金曜日、14時から、同じ場所で開催する。  
修正は委員の皆さんに送る。意見があれば3月6日までに連絡下さい。それを最終案として3月20日に答申する。

【会長】

3月6日までに意見をいただき、それを受けて答申とする。

【事務局】

3月20日は、丸山会長よりこれまで審議して作成していただいた基本構想を市長へ答申いただく旨を説明。

その際は、委員の皆さんにも、日頃のまちづくりについて、一言ずついただきたい旨を説明。

5. 閉会

その他事項

無し